

新潟県 新発田市 NPO法人新発田市総合型地域スポーツクラブ

予算額 4,509,026 円

トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	17 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	4 団体	2 団体	9 団体	2 団体

トップアスリート総数	13 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	2 名	1 名	7 名	3 名

アシスタントコーチ総数	4 名
-------------	-----

指導種目	卓球・バドミントン・器械体操・ダンス・ラグビー・バスケットボール・陸上・サッカー
------	--

◆効果をもとめるための工夫や取組など

- ・ 可能な限り、ニーズにそった多くの種目のトップアスリートを探して対応した。
- ・ この事業の具体的な活用方法を提案した。
- ・ 中学校の部活動支援のためには、学校及び中学校体育連盟と密接な連携のもと実施した。
- ・ 教育委員会との連携の下実施した。
- ・ 単なる派遣ではなく、いろいろなスポーツ振興の可能性について検討した。
- ・ 常に次年度の計画を頭において、推進した。

◆成果と課題

〔成果〕

- ・ 中学校部活動や小学校の保護者会活動のスポーツクラブに、必ずしも優れたそのスポーツ経験者が指導しているわけではなく、たとえ経験豊かな指導者がいる場合でも、トップアスリートから最新の優れたウォーミングアップ、練習方法、技術を学ぶことができたことは一番の成果であった。
- ・ 指導者に聞いてみると、いちおうに子どもたちのモチベーションが上がったと評価していた。
- ・ 当クラブと学校、スポーツ団体との信頼関係が構築できた。
- ・ 当クラブにとって、多くの優れた指導者とのネットワークを図れたことは大きな財産になった。今後のスポーツ振興(スポーツの指導者や当クラブの事業の相談にのってもらうなど)に役立たせることが期待できる。
- ・ トップアスリートの協力により、新たな部活動を立ち上げることができた。また、当クラブの事業の目的の1つである、アスリート育成にも貢献してもらえる目途がたった。

〔課題〕

- ・ 今後もこの事業が継続できるか否かが最大の課題である。是非今後も事業を継続して実施してもらいたい。
- ・ アスリートは多忙な方が多いため、連絡調整が難しかった。スムーズな連携が取れるよう、連絡方法や案内の仕方などのシステム作りや工夫が必要となる。

地域課題解決に向けた取組

1	取組の名称	小学校における教師のスポーツ指導力の低下				
	趣旨・目的	近年、小学校の教師の多くがスポーツの経験がなく、体育の授業にも支障をきたしている。また、教師が非常に多忙なこともあり、教師が指導するクラブはほとんどない状況にある。そのような理由もあり、子どもの体力低下が問題となっている。そこで、トップアスリートを派遣し、教師に最新のスポーツ・科学技術や指導方法を伝授する。				
	内容	冬季の小学校の体育において、教師が児童への指導方法で一番困っているのは器械体操である。そこで、跳び箱、マット運動について、トップアスリートから指導方法について研修会を開催した。				
	対象者	市内小学校教諭	参加人数	87人	実施回数	3回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 校長会や小学校体育連盟等の協力により実施。また、「小学校コーディネーター派遣事業」で述べたとおり、すべての小学校の校長との懇談を通して、具体的な派遣の可能性などについて話をした。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 教師の体育の指導力のスキルアップに貢献できた。 教師の研修することの意義を改めて認識してもらった。 当クラブと教師との信頼関係の構築ができた。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校や個々の教師によって、体育の研修会の必要性についての認識が違う。算数や理科の研修会には多く集まるが、体育関係の研修会にはあまり必要性や興味を示さない教師が多いと聞く。 				

2	取組の名称	中学校部活動の衰退				
	趣旨・目的	<p>少子化に伴い、生徒数が大きく減少し、一校でスポーツ活動を維持することができなくなることや、指導できる教師が減ったことなどから、中学校の部活動の数は大幅に減少し、現在ある部活動も風前のともしびにあるものも多い。</p> <p>そこで、現在ある部活動を支援するため、市内中学校の部員を一堂に集めたところにトップアスリートを派遣し、練習方法や最新技術を学ぶことを通し、モチベーションを高める。</p> <p>また、部活動担当教師にも指導方法を学んでもらう。</p>				
	内容	<p>優秀なトップアスリートは、一般的には多忙である。派遣できる回数には制約がある。せいぜい1回程度しか対応できない場合がある。あるいは、陸上のように短距離、中距離、長距離、ハードル、幅跳び、高跳びなど多種多様で、1校での部員数は非常に少ない。そこで、同一種目の部活動部員を一か所に集めて指導する。</p>				
	対象者	市内中学校生徒	参加人数	200人	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 趣旨はよくても、部活動の指導者の協力がなければ実施できない。指導者とよく連携して事業を実施した。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 目的は十分達成された。 学校同士の連携が今後必要になると思うが、この事業に参加することにより、より密接になる。 多数の優秀な生徒と出会い、より切磋琢磨できる。 派遣経費の効率化が図れる。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。 				

	取組の名称	健常児よりも深刻な障害者の運動不足				
	趣旨・目的	<p>軽度発達障害のある子どもが増加している。障害児は友達も少なく、学校以外では家にいることが多く、運動する機会は健常児よりも圧倒的に少ない。そのため、多くが肥満傾向にあり、それが持続力の低下、行動の緩慢、やる気の減退など、その子どもの将来的に深刻なかけをおとすことになりかねない状況にある。</p> <p>そこで、少しでも解消するため、障害児を対象にしたスポーツ教室(水泳教室、スポーツ教室それぞれを毎月1回)を開催する。</p>				
	内容	体を動かす教室と水泳教室を毎月1回開催する。				
	対象者	市内小学校特別支援教室在籍者	参加人数	200人	実施回数	10回
3	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> この事業で大切なことは、考え方を如何に保護者に理解、認識してもらい、できるだけ多くの子どもが参加できるように促すことと、子どもたちが継続してくれるように楽しいと感じてもらうことであると考えている。 そのため、学校、保護者及び保護者で構成する福祉団体、民間スポーツジムと連携し、周知にも努めた。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが次回を楽しみにしているということを知り、この事業は成功したと評価している。 障害を持った子どもたちにとって、いかに運動することが大切であるかについて少しは周知できた。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の教室に参加したからといって、解決するものではない。日常的に、如何に運動量を増やすかが課題であり、今後、教師や保護者への啓発とより事業の充実が必要である。 保護者の中には非常に熱心な人がいる反面、無理解の人や、送迎を嫌がる人がいる。 当クラブの事業は、小学生が中心であるが、幼児や中学生以上を対象にした事業が必要である(次年度事業で検討) 				

	取組の名称	合併地域のコミュニティスポーツの増進と健康増進のためのスポーツ推進				
	趣旨・目的	<p>平成の大合併により、当市も周辺3町村と合併したが、合併地域のコミュニティ活動、連帯感、スポーツ活動の衰退が課題になっている。そこで、コーディネーターを派遣し、地区公民館や支所、地域スポーツ団体とよく話し合い、また連携し、指導者派遣、スポーツイベント、スポーツ教室等の開催によりスポーツコミュニティの推進を図る。</p>				
	内容	合併地域の地区公民館やスポーツ団体と連携を図りながら、趣旨・目的に沿うよう、3者が一体となって事業を実施する。				
	対象者	合併地域住民	参加人数	300人	実施回数	4回
4	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 合併地域は3地域あるが、それぞれには地区公民館やスポーツ振興会(旧町村時代の体育協会が合併後ぜひ残しておきたいということでスポーツ振興会と名称を変えて活動している)があり、それら機関、団体と連携を取りながら実施した。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> この事業の当初の趣旨・目的を少なからず達成できた。 当クラブは、合併地域との関係はほとんどなかったが、この事業を通して信頼関係が構築できた。 合併地域の地区公民館やスポーツ振興会そのものの活性化に寄与できた。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> この事業は継続してこそ、趣旨が達成されるもので、単年度では効果が低い。 この事業のほかにも、スポーツに限らないいろいろな施策を実施してこそ連帯感やコミュニティの醸成に資することができる。その施策が必要である。 				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	24 校
コーディネーター総数	1 名

◆効果をもとめるための工夫や取組など

- まず実態把握と当クラブの支援の可能性について認識してもらうため、市内のすべての小学校(24校)の校長と懇談した。具体的には、現在、体育授業においてどのようなことで困っているのか、また当クラブにどのようなことを期待しているかなどについて聞いた。
- 当クラブとしては、どのような支援ができるかについて、具体的な過去の事例や支援の可能性などについて話した。
- 依頼されたことについては、即刻期待に応えるべく努力し、その結果については実現の回答し、信頼関係構築に努めた。

◆成果と課題

〔成果〕

- この事業は、時機を得た、学校側にとって非常に有効なものとして評価され、活用した学校から感謝をされた。今後も継続的に続けて欲しいとの要望も多くあった。
- 学校にもよるが、概して、各学校の教師の高齢化や女性教師で体育を苦手に行っている人が多く、予想以上に「体育」の授業の指導者で困っている学校が多いことが分かった。当クラブの支援の重要性も確認できた。
- 事業実施の際には、説明会を開催しているが、ほとんどの学校で当クラブの体育活動支援の活用方法を知らなかった。詳細に説明し、また、可能性などについても理解してもらい、非常に感謝された。今後は、具体的な活用方法を示してもらいたいとの要望が多数あった。
- 本事業実施により、学校側との意思疎通が図れ、より深い信頼関係が構築できた。このような学校側との意思疎通の重要性が認識できた。

〔課題〕

- 多くの学校の要望に応えるためには、予算が足りない。
- 学校の体育の授業への指導者派遣は、平日の日中になり、その時間帯に指導できる人は非常に限られる。対応できる指導者が不足しているため、今後は地域のスポーツ指導者やスポーツ活動団体などのネットワークを活用するなど、人材の発掘に努めていきたい。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

- どの事業も時機を得た、非常に高い効果が期待できる事業で、実際に派遣先の評価が高い。
- 当クラブにとっても、素晴らしいネットワークができたこと、発展の可能性が広がったこと、当クラブの地域への貢献度や評価が大いに高まったことなど、非常に有益な事業である。
- 合併地域との新たな連携を図ることより、市全域でのスポーツ活動の継続・広域的な実施の先駆けとなった。
- 特別支援の必要な子どもが安心してスポーツ活動ができる場を作れたことは、保護者や参加者からも大変喜ばれた。
- 本事業を通じてこればでになかったスポーツ活動を実施することにより、コミュニティを作る意識改革と連携基盤ができ、トップアスリートの発掘と新たな連携体制ができた。

〔課題〕

- 素晴らしい事業であるが、文部科学省の委託料がなければ実施が難しい。今後、継続的に実施していくための財源の確保と、市や学校・近隣の総合型クラブ・スポーツ活動団体等、全体での協力体制を図り、連携を深める働きかけを行いながら実施していくことが必要である。
- 派遣する指導者が重要となるが、指導者は多忙なため依頼が難しいところもある。トップアスリートや、地域の指導者を多く発掘できるよう努めたい。